



皿回しに挑戦
夏休みフリースペース盛況
皿回しなど日替わりで体験

「夏休み子ども・中高生スペース」が8月10日(金)～14日(火)の5日間、こまえみらいテラス内で開かれ、連日多くの小・中・高校生や保護者でにぎわった。

この事業は平成30年から夏休み中の居場所づくりとして子どもたちに親しまれている。

期間中に日替わりで小学生将棋教室や折り紙工作、お菓子作り、ボードゲーム体験、絵手紙など10の体験教室が行われた。応募多数で抽選になった講座もあった。

11日(火)の皿回し体験では、講師の全日本皿回し協会代表の古谷正幸さんが皿回しのコツを丁寧に指導。参加した子どもたちは真剣な表情で挑戦、クルクルと皿が回ると大きな歓声を上げていた。皿回しは集中力を養い達成感と挑戦する楽しさを学べるという。

期間中は遊びや学びのフリース

👉 バリアフリーマップの交流会を開催

障がいの有無や国籍に関わらず、誰でも快適に過ごせる街づくりを目指した交流会が10月4日(土)午前10時～正午にこまえみらいテラスで開催される。

「すべての人にやさしいまちをつくる」をテーマに「狛江バリアフリーマップの会」(首藤留美代表)が開催する。同会は昨年5月に「狛江バリアフリーマップ車いす街歩き」を催し、公共施設や道路、私鉄利用、店などを回って、道路の状態やスロープ、多目的トイレの有無など、車いすの人や足の不自由なお年寄りの利用しやすさや現状をまとめた。この結果を元に、市民に関心を持ってもらい、課題や改善提案を市へ届けるため、交流会で街歩きの振り返りと意見交換を行う。参加無料で、筆記用具・スマートフォン持参。希望者は9月30日(木)までに二次元コード(→)から申し込む。

問い合わせ ken_kelly777@yahoo.co.jp 同会。

スポーツ



車いすで現地調査



浴衣で盆踊りの練習

ペースが設けられたほか、市内で活動する子ども食堂の団体が昼食を提供し人気を集めた。

国際交流で日本の夏味わう 浴衣着て盆踊りやそうめん

狛江市国際交流協会が8月2日(土)に「日本の夏を知ろう&浴衣で盆踊り体験」を催し、外国人や会員など約40人が盆踊りなどで日本の夏を楽しんだ。

こまえみらいテラスで着付けグループ「華結の会」と「四季の会」会員らに浴衣を着付けてもらった参加者たちは、民謡踊りグループ「小足立なごみ会」の会員から「狛江音頭」などの盆踊りを習い、次いで市役所前市民ひろばで催された「いずみ会」の盆踊りの輪に入って踊りを楽しんだ。その後、再びこまえみらいテラスでそうめんなどを食べて交流した。

ベトナム出身で市内在住のグエン・リンさんは「初めて浴衣を着

たが、思ったより動きやすく、盆踊りも楽しかった」と喜んでた。

猛暑の中で水鉄砲バトル 多摩川で約50人が参戦

「狛江かわまちウォーターバトル2」(狛江市主催)が7月25日(土)に多摩川河川敷で催され、約300人が来場した。そのうち約50人がバトルに参加、ずぶぬれになりながら水鉄砲バトルを楽しんでいた。

多摩川を中心として水辺の資源を生かしたまちづくりを目指して策定された「狛江市かわまちづくり計画」に基づく社会実験の一環で、昨年に続き2回目。

水鉄砲バトルは、頭につけたのが破れたり取れたら退場し、残った人数が多い方が勝つというルールで、小学生を中心に3人1組16チームが2ブロックに分かれてトーナメント戦を行った。参加者は猛暑の中で声を掛け合い、河川敷を走り回っていた。



水鉄砲バトル

平和の大切さ映画で実感 「この世界の片隅に」上映会

映画を通して平和の大切さを知ってもらおうと平成28年公開の長編アニメーション映画「この世界の片隅に」の上映会が7月25日(土)に西河原公民館で行われ、猛暑にもかかわらず子どもからシニアまで約130人が訪れた。

狛江市が平和事業の実施に当たり若い世代の意見を取り入れようと、市内在住の大学生で平和ユースの福岡雅也さんの協力

(有)野田製作所

有限会社野田製作所はアパートやマンション、駐車場などの賃貸を中心にした不動産業を50年以上にわたって続けている。3人のスタッフは全員女性で、きめ細かく丁寧な対応が好評だ。

長崎市で大手造船所の鉄工関連の下請け会社を経営

鉄工から不動産へ転進し 50 年余 女性スタッフがきめ細かい対応



来客に対応する野田さん(右から2人目)と秋吉さん(右端)

☎3480-2515 和泉本町1-24-8 事務所営業時間
=午前9時～午後5時 水・土・日曜日休み

で上映する作品を選び開催した。

参加した70代の女性は「戦時中の変遷がよく分かり、平和の大切さを改めて実感しました」と話していた。

認知症を正しく知ろう 子どもたちがVR体験

認知症をテーマにした講座が8月4日(土)と5日(日)に防災センターで催された。

子どもたちが認知症について正しく知り、高齢者を温かく見守ってもらおうと狛江市が催したもので、4日にはVR体験編がワークショップ形式で催され、小中学生と保護者など14人が参加した。

朝日カルチャーセンター認知症フレンドリー講座特任講師のリー寿美子さんがクイズやアニメなどを交えて認知症の症状などについてわかりやすく解説した。続いて



ヘッドセットをかぶって認知症のVR体験

参加者たちはVRヘッドセットを使って道に迷ったり、階段を下りたりする恐怖しさや幻を見るとき認知症の症状を実際に体験。「これからは認知症の人にはやさしく接してサポートしたい」などと話していた。

海外渡航による臓器移植 ポスターと映画で危険訴え

海外渡航による臓器移植取り引きの危険性をテーマにした国際ポ

していた野田留次さん(故人)と息子の孝幸さん(故人)が62年前に狛江市へ転居、孝幸さんが世田谷区で鉄工所を創業した。数年後に現在の場所に自宅兼工場を建て、孝幸さんの営業力と留次さんの

技術力で仕事は軌道に乗った。孝幸さんは「東京狛江ロータリークラブ」の会長を務め狛江の多くの経営者と知り合いになった。当時の狛江市は住宅建設ブームで、ロータリー仲間の勧めで宅地建物取引業の資格を取得、不動産の仕事も手がけるようになり、妻で現社長の松子さん(88)がアパートやマンション、駐車場の仲介や管理の仕事を担当した。その後、家の前を通る一中通りの拡幅に伴い工場が狭くなったため鉄工関連の仕事から撤退、不動産が中心になった。それでも、社名は変えず、「不動産部」として業務を続けている。

現在は松子さんに加え、宅建免許を持っている長女の秋吉久美子さんと次女が働いている。

秋吉さんは高校生の頃から有名タレントのバックダンサーを務めるかたわら、美容整骨師、自律神経管理士、ヨガ、加圧トレーニングなど身体や美容に関する多くの資格を持ち、市内外でダンスやヨガ、体操などの指導をしている。不動産業務に加え健康関連の事業も始めており、将来は社長に就任する予定。

秋吉さんも父と同様に民生委員として地域活動に貢献しており、「長く続けられたのは、祖父母や両親が地域の人と積極的に関わって人の輪を広げてきたお陰」と話している。

スターコンクール作品
展が泉の森会館で8月
1日(土)と2日(日)に催
された。



命のバトンを守る会in狛江(谷本朝子代表)が、狛江市議会で今年3月に「臓器移植に関わる不正な臓器取引や移植目的の渡航等を防止し、国民が知らずに犯罪に巻き込まれることを防ぐための環境整備等を求める意見書の提出を求める陳情」が賛成多数で採択されたことを受け、この問題を知ってもらおうと企画したもの。

会場には令和2年に行われた国際ポスターコンクールの入賞作品など約20点を展示したほか、1日にはドキュメンタリー映画「Human Harvest(邦題:人狩り 中国の違法臓器売買)」を上映、映画会に約20人、展示にのべ約40人が入場した。